

経皮的椎弓根スクリューを用いた低侵襲脊椎固定術

Minimally invasive spine stabilization utilizing percutaneous pedicle screw system

変性疾患、脊椎外傷、感染、腫瘍などに対する低侵襲脊椎固定術（MIS_t）は、手術侵襲低減により入院期間の短縮、早期社会復帰を可能になるなど、患者側の利益が多いと同時に、出血量の減少、感染率の低下など術者側にも‘低侵襲’な術式でもある。一方で、小皮切であるがゆえの手術難易度や術中被爆の問題といった側面も考えられ、ナビゲーションシステム、フルオロナビや術中 CT など、術中画像情報のハイテク化が進んできているが、高価な機材であるがゆえに、どこの施設でも取り入れることは困難であるのが現実であろう。

当院はこれまで、特別な機材を用いることなく、術中透視のみを用いた MIS_t を行ってきたが、狭い手術室での大型器材の置き場の確保から始まり、術前セッティング、顕微鏡操作、PPS 刺入法など、術式の精度を少しでも向上させるよう工夫し、安全性を高める努力を行ってきた。当院のような小さな病院の狭い手術室で、脊椎外科医が一人で行う‘誰にでもできる’ MIS_t の紹介、および手術施行に伴う注意点、安全面への配慮、被爆低減化への取り組みなども紹介したい。